

17世紀のスペイン

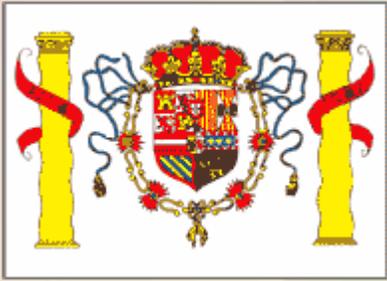
○フェリーペ3世

(1578~1621、在位1598~1621)



スペイン・ハプスブルク帝国

——フェリーペ4世とカルロス2世の時代



○フェリーペ4世(1605~65、在位1621~1665)
「太陽王(プラネット王)」



○カルロス2世(1661~1700、在位1665~1700)
「呪術にかけられた国王」



スペイン帝国の黄昏

・ カトリック擁護政策のスペインにもたらした人的・物的負担

- ネーデルラントの反乱に対処するための軍事支出
- カルロスの残した借金
- 破産宣言(国庫支払停止措置)
- 長期公債(フロ)の増大——1516年～90年に13倍

王室財政の確保のための政策

- 貴族爵位、官職、王領地の売却
- 公債の発行
- 1590年、ミリヨネス税(消費税)の導入
- 新大陸からの銀←——1545年、ポトシ銀山の発見。水銀アマルガム法の導入。

・ 借金増大と経済衰退

- 歳入の8倍にのぼる公債
- 1590年代～ 人口減少、経済後退が顕著となる
- 1630年代～ 銀流入の激減

フェリーペ3世と寵臣政治

・ フェリーペ3世

(1578～1621、在位1598～1621)

— 団体騎馬槍競技、夜会、闘牛などの催し物を好む。

— 狩猟を愛好する。マドリッド近郊のパルド宮など。

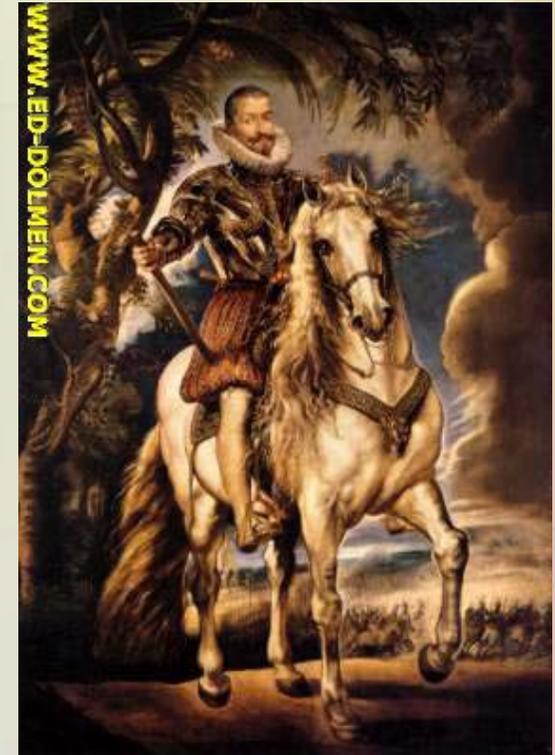
⇒ 国王は政治に直接関与せず、国政は国王の信頼を得た側近(寵臣)に委ねられる。



寵臣(バリード)の登場

- ・ 最初の人物⇒レルマ公爵。
 - 一時、宮廷をバリャドリッドに移す(1601～1606年)
 - ※マドリッドでは、カルロス5世の娘マリア・デ・アウストリア(1528～1603)がデスカルサス・レアレス修道院に居を構えていた。
 - オランダとの休戦協定(1609年から12年間)
 - モリスコ追放の実現(1609～14年)
 - 自らと家門の私腹を肥やす。
 - その腹心にロドリーゴ・カルデロン。
- ⇒息子のウセダ公爵の陰謀によってレルマは1618年に失脚。

- ・ ウセダ公爵——父以上に無能



モリスコの追放

- ・ モリスコと旧キリスト教徒の軋轢
 - ・ 1609～1614年に約30万人を追放
- ⇒バレンシアとアラゴンは、それぞれ12万人、6万人の農民層を失う。大きな経済的打撃。

スペインからディアスポラを余儀なくされたモリスコ

バレンシア	17,464
アラゴン	60,818
カタルーニャ	3,716
カスティーリャとエストレマドゥーラ	44,625
ムルシア	13,552
西アンダルシーア	29,939
グラナダ	2,026
合計	272,140人

(*)このうち3分の1が死亡したと推計される。



Museo del Prado, Madrid/Archivo Fotográfico Oronoz

スペインの経済的衰退

- ・ 耕作地の放棄や離村

⇒ティエラ・デ・カンポスでは1580年から1640年に小麦生産は約4割も落ち込む。

- ・ 食糧危機とペストの蔓延

⇒カスティーリャ諸都市の人口減少

バリャドリード: 1530年頃(3万人)、16世紀末(3万6千人)、17世紀半ば(1万7千人)

トレード: 1530年頃(3万2千人)、16世紀末(6万5千人)、17世紀半ば(2万人)

マドリード: 1530年頃(1万5千人)、16世紀末(9万人)、17世紀半ば(13万5千人)

- ・ 新大陸からの銀流入の減少

- ・ アメリカ植民地の自給の進展

- ・ オランダやイギリスの私掠船の活動

⇒「帝国」内のポルトガルの不満の増大

王室収入増大の政策

- ・ 官職や領主権の売却
- ・ 長期公債(フロ)の発行
- ・ 安易な貨幣操作
 - ⇒ 1599年、ベリオン貨を銅のみで鑄造
 - 1603年、貨幣に2倍の価格を刻印
 - 貨幣価値の混乱とインフレの加速
- ・ 破産宣告—— 1607年、27年、47年、52年、62年
 - ⇒ 国際金融業者はスペイン王室から撤退

「黄金世紀」の文化

・ 政治・軍事、経済、芸術・文学の栄えた時代

⇒各分野の時期は一致しない。

—文学面＝フェリーペ3世期(1598～1621)

—絵画面＝フェリーペ4世期(1621～65)

※異端審問所の課す制約——禁書目録(1559年～)

※世俗演劇コメディア——ロペ・デ・ベガ。「名誉(オノール)」

※悪漢小説(ピカレスク)——「ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯」

※セルバンテスの活躍——「近代小説の祖」

『ドン・キホーテ』の世界

- 「おいらがいつでも神様を、そして聖なるローマ・カトリック教会がよしとして信じておいでのものすべてを、熱烈に心をこめて信じていること、また、実際にそうであるように、おいらがユダヤ人の不倶戴天の敵であること以外になんの取得もねえ男」(『後篇』第8章)

→ユダヤ人への差別

- 「ところで、この物語の信憑性について何か疑義が呈せられるとしたら、もっぱらそれは、作者がアラビア人であることに由来するものであろう。嘘をつくというのはあの民族の本来的な性癖だからである。」(第9章)

→イスラームへの差別

- 「ジプシーというのは男も女も、ただただ盗っ人となるためにこの世に生まれてきたかのようだ」(「ジプシー娘」)

→ジプシーへの差別

- 「・・・ドン・キホーテにつかつかと歩み寄って、相手の槍をつかむなり、ビスカヤ訛りのひどいスペイン語でこう言った—」(第8章)

→言語帝国主義

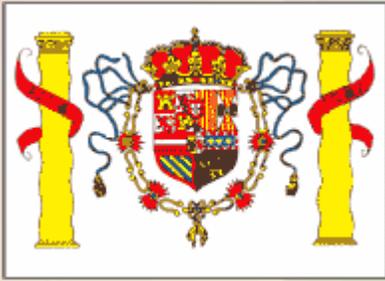


『ドン・キホーテ』400周年(1605-2005)



スペイン・ハプスブルク帝国

——フェリーペ4世とカルロス2世の時代



○フェリーペ4世(1605~65、在位1621~1665)
「太陽王(プラネット王)」



○カルロス2世(1661~1700、在位1665~1700)
「呪術にかけられた国王」



フェリーペ4世の生涯(1)

- ・ 1605年4月、スペインのバリャドリードで、フェリーペ3世と王妃マルガリータ・デ・アウストリア(1584～1611年)の間にフェリーペ(4世)が生まれる。
- ・ 1615年、フェリーペ(4世)と**イサベル・デ・ブルボン**(1603～1644年、アンリ4世の娘)の結婚。
 - ※同時に、フェリーペ3世の娘アナとルイ13世の結婚。 ⇒ ファイサネス島(ビダソア川の中州)での交換儀式
 - ※1620年までは別々に暮らす。
- ・ 1621年3月31日、フェリーペ3世が死去(43歳)。フェリーペ4世の即位(16歳)。
 - ※王子時代の付き人(王子付き侍従)ガスパル・デ・グスマン・イ・ピメンテル(のちのオリバーレス伯公爵)が頭角をあらわす。
 - ※ウセダ公爵に代わってバルタサル・デ・スニガ(オリバーレスの叔父)が実権を握る。
 - ※1622年にスニガが亡くなると、オリバーレスが名実共に寵臣となる。
 - ※1622年、マドリードのマヨール広場で、汚職の罪でロドリゴ・デ・カルデロンを処刑。レルマ公爵はトルデシーヤスの地に監禁。
- ・ 1621年4月、オランダとの戦争開始。(1618～1648年、三十年戦争)

フェリーペ4世の生涯(2)

- ・ 1622年、オリバーレス主導のもと、綱紀肅正に着手。
- ・ 1623年、イギリスのチャールズ王子がマドリードに滞在(フェリーペの妹マリアへの求婚、結局は不成立)。
- ・ 1625年、「奇跡の年」:ブレダのスピノラへの降伏(※)、オランダ勢力をブラジルから追放(※)、ジェノヴァの救援、カディスの防衛、プエルトリコの回復。
- ・ 1627年、フェリーペ4世の破産宣告(次いで、47、52、62年)
- ・ 1627年、この頃女優マリア・イネス・カルデロンと睦まじくなる(29年、二人の間にフアン・ホセ・デ・アウストリアが誕生)。
- ・ 1627年、マントヴァ継承戦争への介入(31年のケラスコ和平)。
- ・ 1629年、バルタサル・カルロス王子が誕生(1629~46年)。
- ・ 1630年、この頃から新大陸の銀産出量が激減。
- ・ 1633年12月、ブエン・レティーロ宮の完成式典。1630年から工事に着手。この後、室内装飾が本格化。1641年までに約800点の絵画が飾られる(主な調達役がベラスケス)。
- ・ 1638年、マリア・テレサ王女が誕生(1638~83年)。

フェリーペ4世の生涯(3)

- ・ 1635年、フランスがスペインに宣戦布告。
- ・ 1639年、スペイン海軍、ダウنزの海戦でオランダ海軍に敗北。
- ・ 1640年6月、カタルーニャの反乱(~52年)
- ・ 1640年12月、ポルトガルの独立反乱、ブラガンサ公爵の即位宣言(68年のリスボン条約で独立を承認)。
- ・ 1643年1月、オリバーレス失脚。この後に、甥のルイス・メンデス・デ・アロが政治を託される(~61年に死亡)。
- ・ 1643年、ロクロワの戦いでスペイン陸軍が敗北。
- ・ ※アグレダの修道女ソル・マリア(1602~65年)に助言を求め始める。二人の書簡は、22年にわたって続く。
- ・ 1646年10月、バルタサル・カルロス王子が16歳で死去。
- ・ 1647年、ペストの流行(~54年)
- ・ 1648年、ウェストファリア条約でオランダ独立を承認
- ・ 1649年、姪の**マリアナ・デ・アウストリア**(1634~96年)との結婚(父は神聖ローマ皇帝フェルディナント3世、母はフェリーペ4世の妹マリア・デ・アウストリア)。
- ・ 1651年、マルガリータ(51~73年)の誕生。
- ・ 1657年、フェリーペ・プロスペロの誕生(61年には死去)。

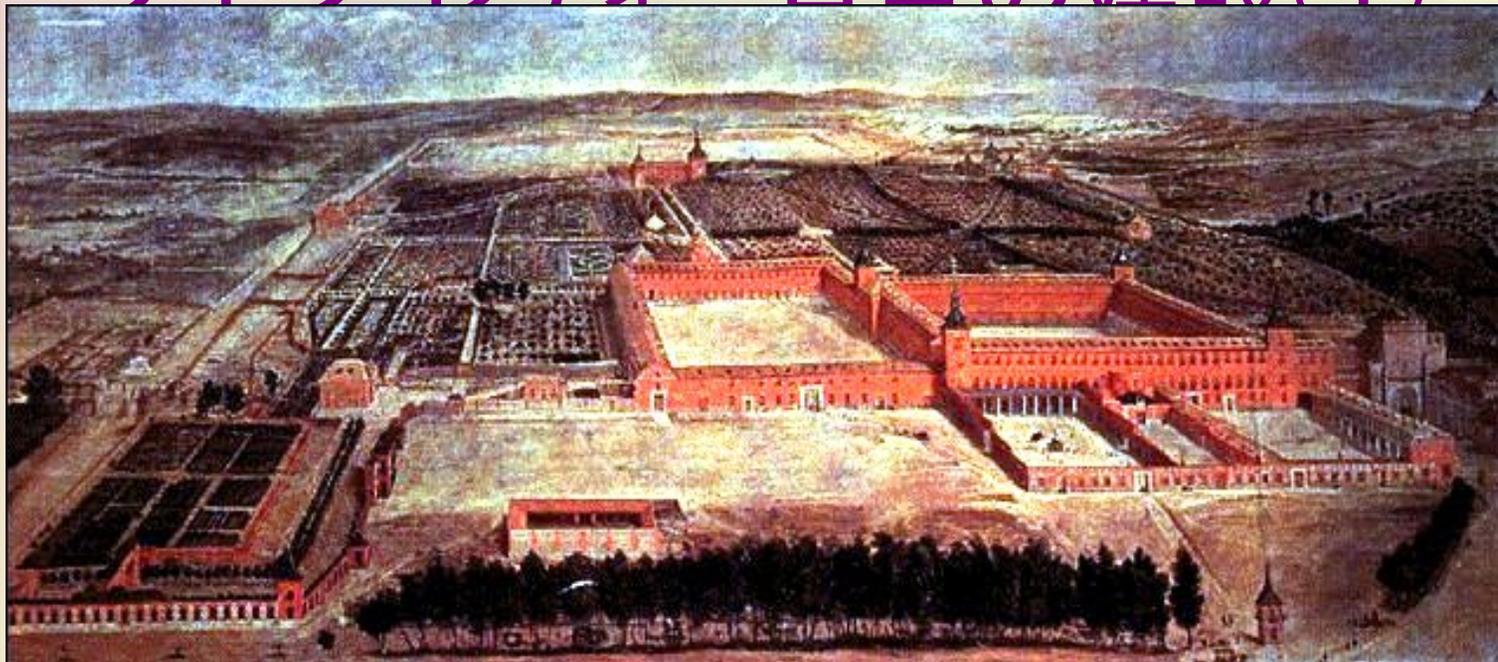
- ・ 1659年、フランスとのピレネー条約でルシヨンとセルダーニュ割譲
- ・ 1661年、カルロスの誕生(カルロス2世となる)。
- ・ 1665年9月17日、フェリーペ4世が60歳で死去

寵臣オリバーレス(1587~1645)

- ・ 1621年、休戦協定が切れたオランダとの戦争を再開
 - ・ 1622年8月、大改革評議会を設置
 - 腐敗の糾弾、綱紀粛正、奢侈禁止、全般的健全化
 - ・ 1624年、国王への進言書
「国王陛下。あなた様の王国のもっとも重要な案件は、あなた様がスペイン国王となられることです。すなわち、陛下、あなた様がポルトガル、アラゴン、バレンシアの国王、バルセローナ伯爵であることに満足されず、スペインを構成するこれらの王国をカスティーリヤの形式と法に則って治められるように、……熟慮した秘密の進言を受けつつお考えになりお働きになることです。」
⇒《複合王政》の否定
 - ・ 1626年、軍隊統合計画
 - ・ 1635年、フランスとの戦争が本格化
 - ・ 1640年、カタルーニャの反乱、ポルトガルの独立戦争の開始。
 - ・ 1643年1月、オリバーレスの失脚。
 - ・ 1645年7月、死去。
- ※「大帝国の忌まわしい寵臣もすべてを消耗したあげく、ついに事切れたようだ。彼の死は万人を満足させるものであった。」
(年代記作家マティアス・デ・ノボア)



ブエノス・アイレスの建設(1)



ブエン・レティエーロ宮の建設(2)



諸王国の間 ⇒「政治的プロパガンダの記念物」

- 前国王夫妻・現国王夫妻・王太子の騎馬像(王家の過去・現在・未来)——ベラスケスの作品
- ヘラクレスの生涯を題材にした10枚の絵——スルバランの作品
- 戦争を主題にした12枚の絵——「ブレダの開城」(ベラスケス)、「バイーアの回復」(マイノ)など
- 天井の24の紋章——スペイン王国を構成する諸王国

ブエン・レティーロ宮の建設(3)



ブエン・レティーロ宮の建設(4)

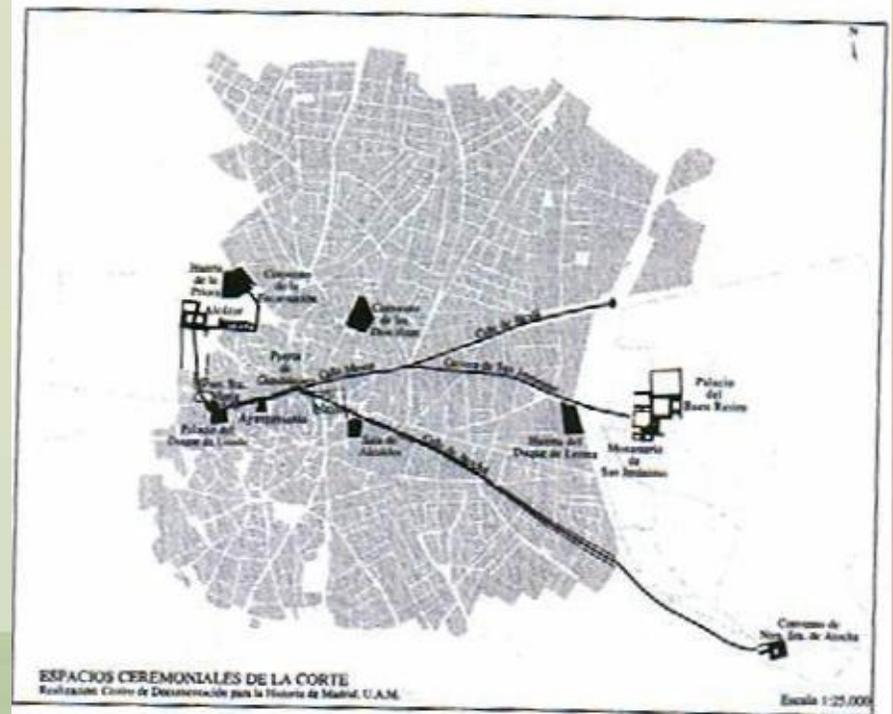


劇場としての帝都マドリッド(1)

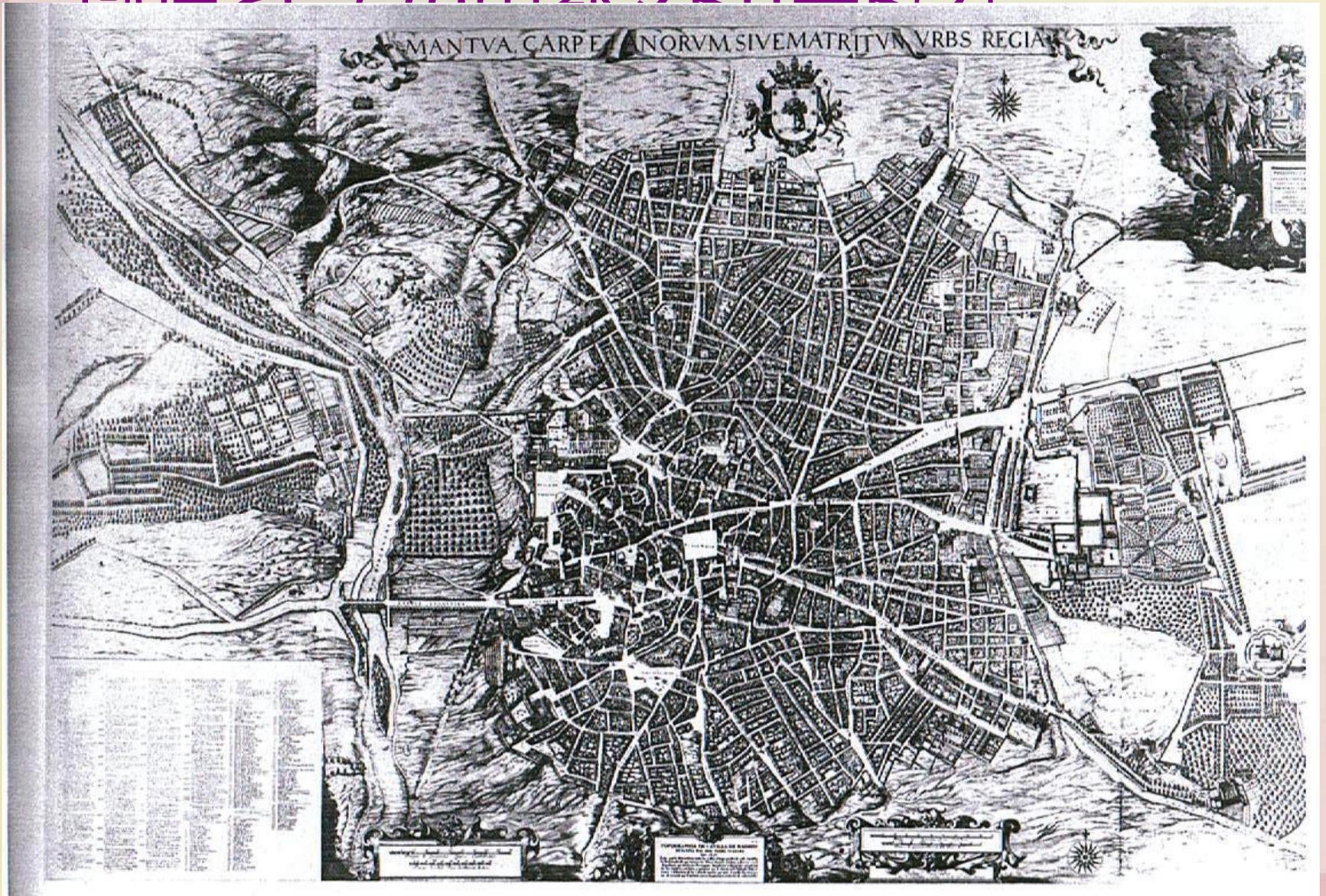
- 旧王宮(アルカサル)——聖母マリア教会
- マドリード市庁舎——グアダラハラ門
- マヨール通り——アルカラ通り——アルカラ門
- マヨール通り——聖ヒエロニムス通り——聖ヒエロニムス修道院／ブエン・レティーロ宮殿
- マヨール広場——アトーチャ通り——アトーチャ修道院



LAMINA 3. Principales espacios ceremoniales de la corte madrileña, ca. 1650



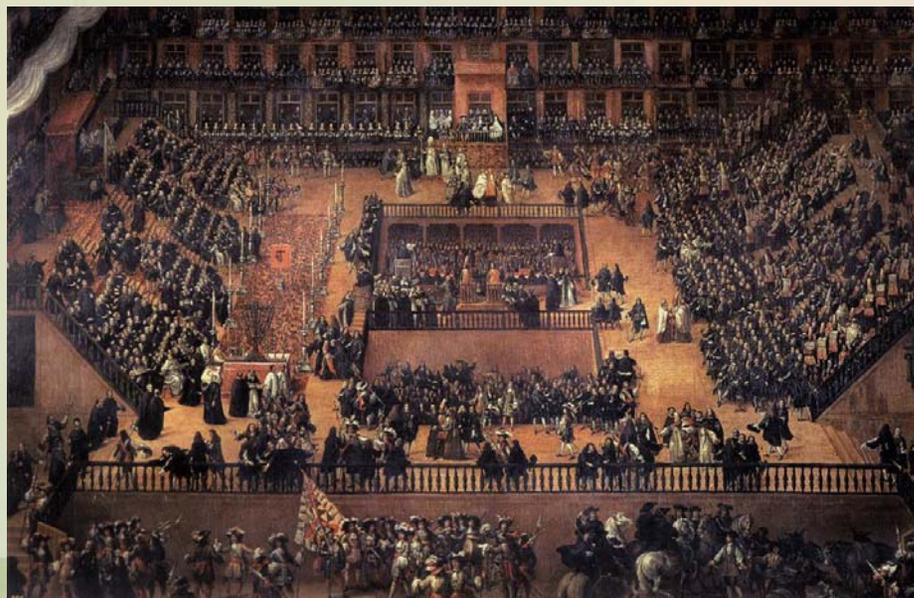
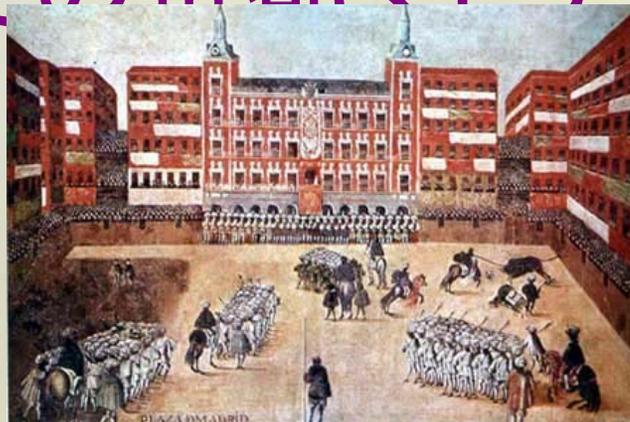
劇団としての京都ブロード(2)



劇場としての帝都マドリッド(3)



劇場としての帝都マドリッド(4)



宮廷画家ベラスケス(1)



宮廷画家ベニコッポ(2)



宮廷画家ベラスケス(3)



- ・ 1599年、セビーリャに生まれる。パチェーコの工房で修行。
- ・ 1617年、職業画家としての道を歩み始める。
- ・ 1623年、オリバーレスに引き立てられて、マドリッドで国王肖像画を描く。
- ・ 1623年、控の間取次係
- ・ 1628年、この年までに王家画家となる。
- ・ 1633年、宮廷警吏
- ・ 1636年、王室衣装係
- ・ 1639年、宮廷重要文書書記
- ・ 1643年、王室侍従代。王室特別工事監督官。
- ・ 1647年、王宮《八角の間》工事検査官兼会計官
- ・ 1649年、国王のための芸術買い付け人としてイタリアに赴く。
- ・ 1652年、王室配室長。
- ・ 1656年、「女官たち」を制作。
- ・ 1659年、サンティアゴ騎士修道会に入会(「女官たち」のなかの自画像にサンティアゴ十字章がのちに描かれている)。
- ・ 1660年、式典儀式を演出。
- ・ 1660年、突然の病でマドリッドで没する。

※宮廷画家＝宮廷装飾家(王権を装うこと)

※「フェリーペ4世の家族」——宮廷家族の図柄を描く。17世紀的な風俗画。宮廷の私的空間を自然に描いた絵。(1500ドゥカードの値段)

1640年代の危機——《複合王国》の衰退

- オリバーレスの政策(戦争の遂行、徴募・徴税の強化、地方特権フエロスを無視する中央集権主義的政策)への反発。
- 諸国・地域の内的矛盾(領主農民関係、都市寡頭支配層と民衆の対立)。
- 伝統的貴族・支配層のオリバーレスへの反発。
- カタルーニャへのカスティーリャ軍隊の駐屯、宿泊供与の強制。

⇒1640年6月7日(「血の聖体の祝日」、カタルーニャの反乱の開始。副王の殺害。→41年、フランスのルイ13世を国王に戴く→戦乱による疲弊と疫病→52年、バルセローナは降伏→53年、諸特権遵守をフェリーペ4世が誓約して反乱は終結。

⇒1640年12月、ポルトガルの独立反乱。→68年のリスボン条約。

⇒1641年、アンダルシアでメディーナ・シドニア公爵の陰謀。

⇒1647～48年、ナポリやシチリアで反税運動

⇒1648年、アラゴンでイハル公爵の陰謀

⇒1647～52年、スペイン南部での騒擾が続く。



(補遺)カタルーニャの反乱と自治州歌

TEXT DE L'HIMNE NACIONAL

Catalunya, triomfant,
tornarà a ser rica i plena!
Endarrera aquesta gent
tan ufana i tan superba!
Bon cop de falç!
Bon cop de falç, defensors de la
terra!
Bon cop de falç!
Ara és hora, segadors!
Ara és hora d'estar alerta!
Per quan vingui un altre juny
esmolem ben bé les eines!
(tornada)
Que tremoli l'enemic
en veient la nostra ensenya:
com fem caure espigues d'or,
quan convé seguem cadenes!
(tornada)



刈り取り人の歌(Els Segadors)

1659年のピレネー条約

- ・ 1659年11月7日、ピレネー条約に調印
→カタルーニャ領土の5分の1にあたるルシヨンとセルダーニュ半分とがフランスのものとなる。
→ルイ14世とフェリーペ4世の娘マリア・テレーサの結婚を取り決める。

⇒スペインの優位が失われ、「フランスの時代」が始まった。

- ・ 1660年6月7日、ファイサネス島でフェリーペ4世がルイ14世に王女マリア・テレーサを渡す儀式(スペイン側は「王室配室長」ベラスケスがこれを手配する)。



カルロス2世「呪術にかけられた王」



カレニョ・デ・ミランダ作
(1575年頃
年)



同作
(1685年)



クラウディオ・コエリョ作
(1690～95)

「脆弱な体質に締りのない足／みたところ王子はどうやら／王家の御子
とは無関係／独りでは立ち上がれない」

カルロス2世の生涯(1)

- ・ 1661年11月6日、マリアナ・デ・アウストリアがカルロスを出産。
- ・ 1665年9月17日、カルロス2世即位。14歳になるまでは母后マリアナが摂政となり、これを統治評議会が支えるものとされた。
- 66年以後はマリアナの聴罪司祭ニタルト(オーストリア出身のイエズス会士)が評議会を牛耳る。
- ・ 1667～68年、帰属戦争。
- ・ 1668年2月13日、リスボン条約でポルトガルの独立承認。
- ・ 1669年、ホセ・デ・アウストリアの要求を受け、マリアナはニタルトを解任。フェルナンド・デ・バレンスエラが権力を握る。
- ・ 1672～78年、オランダ戦争。
- ・ 1673年、マルガリータがウィーンで死去。
- ・ 1676年、大貴族たちの反発を受けてバレンスエラが失脚。フアン・ホセがマドリードに凱旋。
- ・ 1677～78年、全土が深刻な飢饉と疫病に見舞われる。
- ・ 1678年、フランスにフランシュ・コンテを割譲。
- ・ 1679年、フアン・ホセ・デ・アウストリアが死去。メディナセリ公爵フアン・フランシスコ・トマスが政権につく。
- ・ 1679年、マリア・ルイサ・デ・オルレアン(ルイ14世の姪、62～89年)と結婚。

カルロス2世の生涯(2)

- ・ 1680年、50%の平価切下げを実施(次いで86)。インフレーションの沈静化。
- ・ 1685年、トマスが失脚。オロペーサ伯爵が跡を継ぐ(~91年)。
- ・ 1688~97年、プファルツ戦争。
- ・ 1689年、マリアナ・デ・ネオブルゴ(プファルツ選帝侯の娘、1667~1740年)を二度目の妻として迎える。
- ・ 1691年、オロペーサが失脚。
- ・ 1696年5月16日、母后マリアナが死去。
- ・ 1697年、ライスウィク条約。
- ※カルロスが嗣子なくして死ぬことが予想され、スペイン王位継承をめぐるブルボン家の王を望む一派とオーストリア・ハプスブルク家を望む一派の対立が激化する。「悪魔祓い」の儀式の挙行。
- ・ 1698年、オロペーサ(親ハプスブルク派)が再び政権の座につく。
- ・ 1699年4月、首都マドリードに食糧暴動。オロペーサが失脚。親ブルボン派が勢いを増す。
- ・ 1700年10月、カルロス2世が孫フィリップに王位を譲ると遺言。
- ・ 1700年11月1日、カルロス2世死去。ハプスブルク朝スペインの断絶。
- ・ 1700年11月24日、アンジュー公フィリップ、フェリーペ5世として即位。**ブルボン朝スペイン**の成立。
- ・ 1701年9月、スペイン王位継承戦争が勃発(~14)。

領土の喪失と経済回復への動き(1)

- ・ 三十年戦争
⇒1648年、ウェストファリア条約。
オランダ独立を承認。
- ・ 1659年、ピレネー条約
⇒ルシヨンなどを割譲
- ・ 67～68年、帰属戦争(フランドル戦争)
⇒フランドル諸都市、フランシュ・コンテなどを割譲
- ・ 72～78年、オランダ戦争
⇒フランドル諸都市、フランシュ・コンテなどを割譲
- ・ 88～97年、プファルツ戦争
⇒97年、ライスウィック条約。ルイ14世のスペイン懐柔策。



スペイン帝国の領土の喪失

領土の喪失と経済回復への動き(2)

- ・ 1680年、ベリオン貨の50%平価切下げ。1686年、銀貨の20%平価切下げ

→貨幣の信用回復

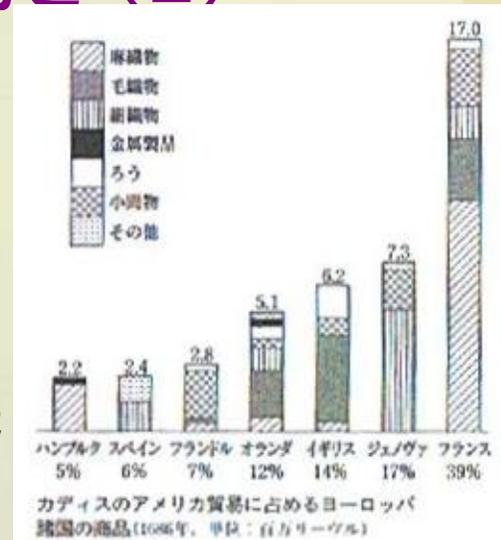
- ・ 周辺地域の経済回復。とくにカタルーニャ。

→ブドウ栽培。ブランデーの輸出。分散的織物製造の展開。

→人口の回復

- ・ ヨーロッパ諸国と比べての遅れ

→1686年のスペイン領アメリカへの輸出統計:スペイン製品はわずか6%



バロック的宗教性(1)

- ・ 死への恐怖／現世の虚しさ



バロック的宗教性(2)

- ・ マリア信仰（「無原罪のお宿り」）
- 「祝福あれ、いと清らかなマリア様に」
- 「(その母の胎内に)原罪をまぬがれて宿られた」



バロック的宗教性(2)

- ・ 教会＝王権

終油(臨終者に授けられる聖体の秘跡)を運ぶ司祭に馬車を差し出すカルロス2世の図。

→ひざまづいて祈りをささげる人々。

《帰依》の外的表明



スペイン・ハプスブルク家の断絶

ブルボン家のアンジュー公フィリップ

バイエルン公ヨーゼフ・フェルディナント(1699年2月に死去)

ハプスブルク家のカール大公

※「もはやピレネー山脈は存在しない」
(在仏スペイン大使の言葉)

⇒スペイン王位継承戦争(1701~14年)を経て、ブルボン朝スペインは成立する。

※スペイン領アメリカは維持するが、スペイン本国をのぞくヨーロッパ領土はすべて喪失する。

図3-1 スペイン王位の継承候補者

